

今日のトピック FRBはバランスシート縮小を9月末で終了（2019年3月） 利上げは打ち止めとなった模様

ポイント1 政策金利は据え置き 全会一致の決定

- 米国の連邦準備制度理事会（FRB）は、3月19日、20日に開催した連邦公開市場委員会（FOMC）で、市場の予想通り政策金利であるフェデラルファンド（FF）レートの誘導目標レンジを2.25%～2.50%で据え置きました。

ポイント2 国内経済は昨年より減速 19年の物価は目標を下回る見通し

- FRBは、国内経済について、労働市場の状態は力強く、経済活動は拡大していくと見ているものの、足元で景気は減速しているとしています。また、物価上昇率について、低水準の原油価格などが影響し、2019年の物価上昇率はFRBの目標を下回ると見えています。
- FRBは物価の安定を使命のひとつとしており、今後はインフレ期待をいかにして高めていくかがポイントとなりそうです。

今後の展開 利上げは打ち止め、バランスシート縮小は9月末で終了

- 今回のFOMCでは、参加メンバーが想定する2019年の利上げ回数が、前回2018年12月時点の2回から、0回へと引き下げられました。インフレ期待が高まらないため、利上げは実質的に打ち止めになったと考えることができそうです。
- 一方、FRBのバランスシート縮小プログラムについては、今年5月からは資産圧縮のペースを緩やかにし、9月には完全に圧縮を停止すると発表しました。
- 今回のFOMCはハト派的と受け止められ、20日は長期金利と米ドルが低下しました。また、米国株式は1日遅れて21日に上昇しました。

【政策金利と物価上昇率の推移】



(注1) FFレート、10年国債利回りは2007年1月5日～2019年3月22日。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。
(注2) 物価上昇率はPCE（個人消費支出）コア物価指数の前年同月比で、2007年1月～2018年12月。
(出所) Datastream、Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【FOMC参加者の経済見通し】

項目	開催月	2019年	2020年	2021年	長期
GDP成長率	3月	2.1	1.9	1.8	1.9
	(%)	12月	2.3	2.0	1.8
失業率	3月	3.7	3.8	3.9	4.3
	(%)	12月	3.5	3.6	3.8
物価上昇率	3月	2.0	2.0	2.0	-
	(%)	12月	2.0	2.0	2.0
FFレート	3月	2.4	2.6	2.6	2.8
	(%)	12月	2.9	3.1	3.1

(注1) 開催月は、FOMCで経済見通しを公表した月。
(注2) FOMCメンバーによる予測の中央値。GDP成長率と物価上昇率は10-12月期の前年同期比。物価上昇率は個人消費支出（PCE）コア物価指数。失業率は各年10-12月期の平均値。FFレートは各年末時点における誘導レンジの中央値。
(出所) FRBの資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2019年3月15日 終わりに近くFRBの『バランスシート縮小』
2019年2月28日 減速傾向が鮮明な米企業業績

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。